たぶろう会45周年記念パリ旅行

2010年11月8日～17日（10日間）

　パリは今日も一日雨サ。
この頃のパリはしかたないサ。
フランス語なまりの日本語のガイドでたぶろうの仲間１５人のパリ旅行が始まった。
　早速前日大理石の螺旋階段からダイビングの人あり。
どうなることやら・・・・。

宿泊ホテル

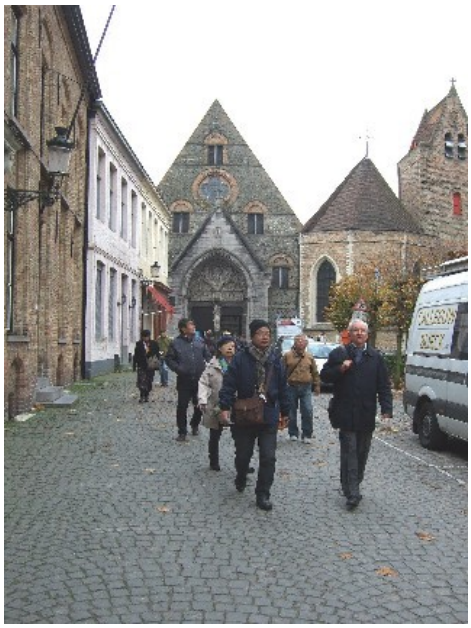
大理石のホテル階段

【パリ１日目】
　１日目はベルギーの世界遺産「ブルージュ」へ。マイクロバスで４時間の旅。北のベニスと言われている。町中に運河が巡らされて風光明媚。晩秋のたたずまいで紅葉が美しい。まずは記念写真。食事時間もそこそこにたぶろうの面々はスケッチに散った。

ブルージュで記念写真

バスを後に町へ向う

ブルージュの運河


ブルージュの街並み

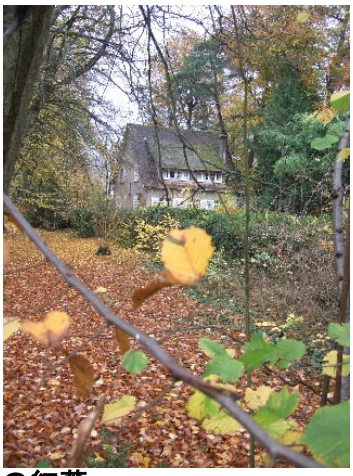
【パリ２日目】

２日目はバルビゾンへ半日スケッチ。２台の車に分乗しパリの東南の方向へ。およそ１時間弱でバルビゾンに到着。今日も天気は良くないが到着の頃には天気も良くなった。スケッチが出来る。ミレーのアトリエの前で記念写真。２時間ばかり好き好きにスケッチへ出かけた。

バルビゾン・ミレーのアトリエで記念写真

バルビゾンの家並み

ヴローニーの森



バルビゾンの紅葉

夜はサントシャペル協会のコンサートへ地下鉄で行く。

電車が入ってくると女の子達が７～８人ワッと乗り込んできた。奥さんの「何するの！」ピシャ！とひっぱたく音。何とバックのチャックが一斉に開けられていた。たたかれた子ども達は逃げていった。何も取られなかったと奥さん。

教会の入り口でみんなと合流。協会に入るときのセキュリティーでパスポートを見せなければならないかもと奥さん、「やっぱりパスポートを取られた！」と大騒ぎ。コンサートどころではなくなって旅行社へ電話、連絡先チェック等々・・マイッタ。みんなもパリの恐ろしさを実感。と「あった！」再度バックを調べていた奥さん。良かった良かった、マリア様に感謝。みんな気をつけよう。

その後もパリのフリータイムではチャックを開けられたりの被害者が続いたがティッシュを取られた位。教育効果は抜群だった。

【パリ３日目・パリ４日目ーフリータイム】

３日目、４日目は美術館めぐりのフリータイム。

３日目は本当に美術館めぐりにぴったりの雨の一日。まずルーブル美術館から始まりオルセー美術館、オランジュリー美術館を巡った。

オルセー美術館あたりからいつのまにかみんな集ってきた。オランジュリー美術館からはそろって OPERA まで地下鉄で戻った。

あこがれのルーブル美術館で記念写真

まずミロのヴィーナス

あまりの多さにお疲れの面々

モナリザ

セーヌ川とルーブル美術館

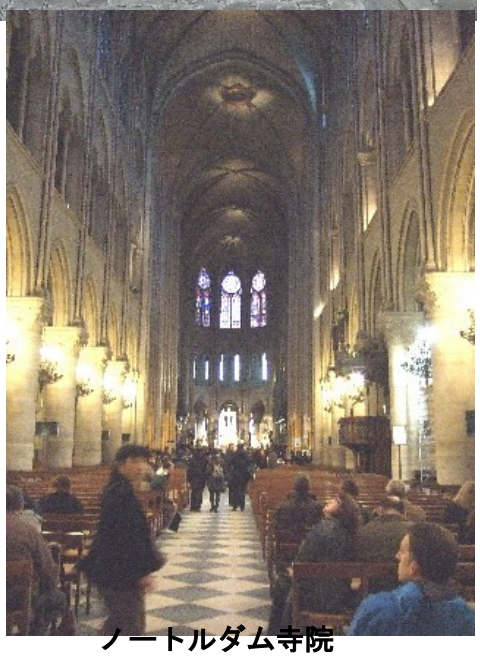
４日目はまあまあの天気。朝からセーヌ川沿いにスケッチを始めた。紅葉は盛りを過ぎているがスケッチにはちょうど良い。昨日のルーブル美術館付近でセーヌ川に下り国立美術学校からシテ島を望む当たりをスケッチ。

その後はみんなと別れてパリ市庁舎、ノートルダム寺院の見学に行った。帰りはセーヌ川の

西岸を歩き、エッフェル塔近くまで行き小雨模様のためスケッチをあきらめシャンゼリゼ通りの散策から凱旋門まで歩いた。疲れもありタクシーでホテルへ戻った。

スケッチ開始

パリ市庁舎



ノートルダム寺院

セーヌ川と
エッフェル塔

凱旋門

シャンゼリゼ通り

【パリ５日目】

５日目のモンサンミシェルも雨。年間２２０日雨らしい。仕方ないサ。
早朝ホテルを出発。バスターミナルデで二階建ての大型バスに乗り込む。日本語のガイドさんがついて案内をしてくれる。

雨の高速道路をパリから西へ走ること４時間。モンサンミシェルのある海岸に到着する。ここの名物料理はふわふわのオムレツ。昼食後モンサンミシェルの見学へ。ずっと雨は降り続いている。スケッチどころではないが雨の中最後に１枚モンサンミシェルの全景を描いた。

大型バスでモンサンミシェルへ　　到着後名物のオムレツで昼食

雨のモンサンミシェルの全容

【パリ６日目】ーたぶろう会のルーツを尋ねてゴッホ終焉の地へ

パリ旅行の６日目フリータイムなので、ゴッホ終焉の地オヴェール・シュル・オワーズを奥さんと一緒に訪ねた。

パリ北駅からヴァルモンドワ駅で乗り換え一駅でオヴェール・シュル・オワーズ駅に着く。１時間くらいで到着した。ローカル線のようで無人駅だ。この駅は私の師匠並木義治先生の師匠である里見勝蔵先生と師事したヴラマンクが描いて有名だ。

里見先生もゴッホにあこがれこの地に滞在して描いていた。そのときヴラマンクが通りかかり里見先生の絵に手を加えて教えた。里見先生も頑固な方だからそれを消してしまってまた自

分の絵を描いた。次の日もヴラマンクが来て直した。そして、自分の別荘に遊びに来るようにと誘った。それから里見先生とヴラマンクの長い付き合いが始まった。
そんな意味でここオヴェール・シュル・オワーズはたぶろう会のルーツの地だと思う。たぶろう会４５周年記念のパリ旅行なので必ず訪ねたいと計画していた。

至る所ゴッホの描いた場所があり看板にはゴッホの絵が掲げられている。そんな中に「カラスの舞う麦畑」の絵がある。その麦畑の中にゴッホの墓はあった。立派な墓地で沢山の墓石が並んでいる。どれがゴッホの墓か案内は無い。奥さんと手分けして探した。何回か墓の中をめぐっているとき５～６人の人達がやってきた。この人達もゴッホの墓参りだと言う。良かったゴッホの墓が見つかった。ゴッホの墓は弟のテオと一緒に並んで葬られていた。一度探した場所だったが他の墓石に比べて小さく蔦に覆われていた。見過ごしてしまったようだ。傍らにお花の鉢が二つ。バラの花が一輪。風情があった。

墓参りのあと麦畑を散策しスケッチした。今もカラスが多い。ゴッホが描いた頃と変わっていないでうれしい。変わったといえばたぶんパリの近郊なので通勤圏にあたり家が増えているのではなかろうか。晩秋の日曜日なので午後になると静かになった。みんな休息なのか、お店も閉まってしまった。駅に寄り帰りの電車の時間を確認してびっくりした。午後２時から５時半まで電車がまったく無いらしい。夜のセーヌ川ディナーの予定があるのであわてた。
通りかかりの人が何人か寄ってきて説明してくれたが言葉が通じない。あれやこれや思案しているうちに時間は過ぎる。３時になり意を決して元来たヴァルモンドワ駅まで歩くことにした。雨は降り出すし、尋ねる人影はないし、ヴァルモンドワ駅が見えた時はほっとした。１時間位歩いた。ヴァルモンドワ駅からは幹線なので沢山の電車があった。
帰りはひやひやだったが今度のパリ旅行で一番印象的な一日となった。

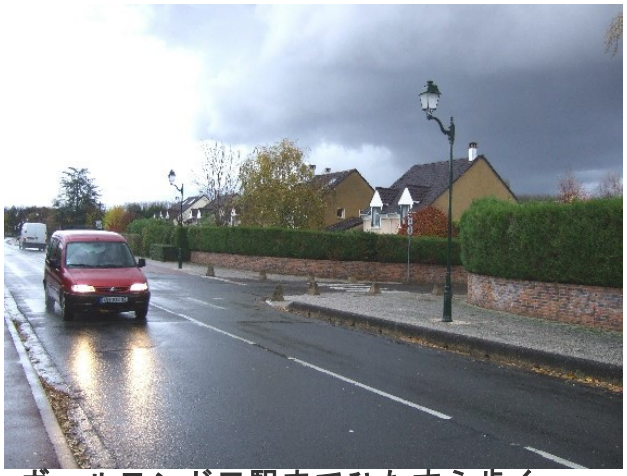
ゴッホが描いた村役場

ヴラマンクが描いたオヴェール・シュル・オワーズ駅

ゴッホが描いたノートルダム教会

ゴッホが描いた「カラスの舞う麦畑」の先にゴッホの墓がある

ゴッホと弟テオの墓



ヴァルモンドワ駅までひたすら歩く

ゴッホが描いた「カラスの舞う麦畑」看板

【パリ６日目夜のセーヌ川ディナークルーズ】

　オヴェール・シュル・オワーズから帰って一休みしディナークルーズへ出かけた。旅行の終盤に粋な企画である。セーヌ川に映るパリの灯りが美しい。最後にエッフェル塔のキラキラと光る灯りが〆てくれた。

美味しいフランス料理にワイン。
セーヌ川に映るパリの灯りを眺めながら
セーヌ川の夜を満喫しました

【パリ７日目】

　最終日は前夜のディナークルーズで遅くなったこともありセーヌ川でのんびりとスケッチ。再度のトラブルを回避しょう・・・。

　最後の夜はホテルの近くのレストランで「最後の晩餐?」をすることになった。やっぱり雨レストランに集り好きな料理を注文して美味しいワインで旅行の無事完了を祝いました。
成田に着くまでまだわからないけどサ。

セーヌ川も帰る頃晴れ上がった

レストランで「最後の晩餐?」

　荷物の積み残しのトラブルはありましたが１５名無事成田に帰り着きましたよ。
皆様大変ご苦労様でした。来年、２０１１年5月に企画の「Tableau・パリアート展」に成果の発表を期待しますサ。

完　(編集　春名康夫)